

スーリヤ神への八連詩

作曲：グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ

スーリヤーシュタカム

スーリヤ神への八連詩

第1節

आदिदेव नमस्तुभ्यं प्रसीद मम भास्कर ।

दिवाकर नमस्तुभ्यं प्रभाकर नमोऽस्तु ते ॥

*ādideva namas tubhyaṁ prasīda mama bhāskara |
divākara namas tubhyaṁ prabhākara namo 'stu te ||*

おお、原初の神よ、あなたに敬意を表します！ 私に慈悲をお恵みください。

昼と光を創造する者よ、あなたに敬意を表します！

第2節

सप्ताश्वरथमारूढं प्रचण्डं कश्यपात्मजम् ।

श्वेतपद्मधरं देवं तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*saptāśva-ratham ārūḍhaṁ pracanḍaṁ kaśyapātmapajam |
śveta-padma-dharaṁ devaṁ taṁ sūryaṁ praṇamāmy aham ||*

7頭の馬が引く戦車に乗り、

賢人カシュヤパの息子、

そして白いハスを持つ燃え盛る神である、

スーリヤ神に私は頭（こうべ）を垂れる。

第3節

लोहितं रथमारूढं सर्वलोकपितामहम् ।

महापापहरं देवं तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*lohitaṁ ratham ārūḍhaṁ sarva-loka-pitāmaham |
mahāpāpa-haraṁ devaṁ taṁ sūryaṁ praṇamāmy aham ||*

赤い戦車に乗り、すべての世界の父祖、
そして大きな欠点を取り除く者である、スーリヤ神に私は頭を垂れる。

第4節

त्रैगुण्यं च महाशूरं ब्रह्माविष्णुमहेश्वरम् ।

महापापहरं देवं तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*trai-guṇyaṁ ca mahāśūraṁ brahmā-viṣṇu-maheśvaram |
mahāpāpa-haraṁ devaṁ taṁ sūryaṁ praṇamāmy aham ||*

三つの特質を持つ偉大な戦士、
大きな欠点を取り除く者、
そしてブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァである、
スーリヤ神に私は頭を垂れる。

第5節

बृंहितं तेजःपुञ्जं च वायुमाकाशमेव च ।

प्रभुं च सर्वलोकानां तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*bṛmhitam tejah-puñjam ca vāyum ākāśam eva ca |
prabhum ca sarva-lokānām taṁ sūryam praṇamāmy aham ||*

風と空、そしてすべての世界の神である、
拡大する光輝の塊、スーリヤ神に私は頭を垂れる。

第6節

बन्धूकपुष्पसङ्काशं हारकुण्डलभूषितम् ।
एकचक्रधरं देवं तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*bandhūka-puṣpa-saṅkāśam hāra-kuṇḍala-bhūṣitam |
eka-cakra-dharam devam taṁ sūryam praṇamāmy aham ||*

深紅の真昼の花のように輝き、
花輪と耳飾りで彩られ、
そして一輪の戦車を持つ、
スーリヤ神に私は頭を垂れる。

第7節

तं सूर्यं जगत्कर्तारं महातेजःप्रदीपनम् ।
महापापहरं देवं तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*taṁ sūryam jagat-kartāram mahātejah-pradīpanam |
mahāpāpa-haram devam taṁ sūryam praṇamāmy aham ||*

スーリヤ神、宇宙の創造者は、
偉大な輝きで燃え盛り、大きな欠点を取り除く。
その神に、私は頭を垂れる。

第8節

तं सूर्यं जगतां नाथं ज्ञानविज्ञानमोक्षदम् ।
महापापहरं देवं तं सूर्यं प्रणमाम्यहम् ॥

*taṁ sūryaṁ jagatāṁ nāthaṁ jñāna-vijñāna-mokṣadam |
mahāpāpa-haraṁ devaṁ taṁ sūryaṁ praṇamāmy aham ||*

スーリヤ神、あまたの世界の師は、
大きな欠点を取り除き、
知識、英知、解放を授ける。
その神に、私は頭を垂れる。

第9節

सूर्याष्टकं पठेन्नित्यं ग्रहपीडाप्रणाशनम् ।
अपुत्रो लभते पुत्रं दरिद्रो धनवान्भवेत् ॥

*sūryāṣṭakaṁ paṭhen nityaṁ graha-pīḍā-praṇāśanam |
aputro labhate putraṁ daridro dhanavān bhavet ||*

人は「スーリヤ神への八連詩」を絶えず朗唱すべきであり、
それは惑星の負の影響を取り除く。
この賛歌を朗唱することにより、子のない者は息子を授かり
貧しい者は裕福になる。

第 10 節

आमिषं मधुपानं च यः करोति रवेर्दिने ।

सप्तजन्म भवेद्रोगी प्रतिजन्म दरिद्रता ॥

*āmiṣam madhu-pānam ca yaḥ karoti raver dine /
sapta-janma bhaved rogī pratijanma daridratā ॥*

太陽にささげられた日に

肉を食べ酒を飲む人は、

7回の生涯にわたって病み、そしてどの生涯でも惨めになるであろう。

第 11 節

स्त्रीतैलमधुमांसानि यस्त्यजेत्तु रवेर्दिने ।

न व्याधिः शोकदारिद्र्यं सूर्यलोकं स गच्छति ॥

*strī-taila-madhu-māmsāni yas tyajet tu raver dine |
na vyādhīḥ śoka-dāridryam sūrya-lokam sa gacchati ॥*

しかし、太陽にささげられた日に

禁欲し、油の多い食物、酒、肉を放棄する人は

病、悲しみ、貧困に、決して見舞われることはないであろう。

そのような人はスーリヤ神の王国に到達する。

इति श्रीशिवप्रोक्तं सूर्याष्टकं संपूर्णम् ॥

iti śrī-śiva-proktaṁ sūryāṣṭakam saṁpūrṇam ॥

こうして、シュリー・シヴァによって教えられた

「スーリヤ神への八連詩」は完結する。

エリザベス・グリムバーゲンによる紹介

太陽と、空を移動していくかのように見えるその旅は、人類の最も原初的な力強い新しい始まりの象徴の一つです。太陽はすべての生命を維持する光を供給します。インドの精神の伝統では、太陽は神、スーリヤ神としてあがめられており、地球上で最も古い教典の一つである『リグ・ヴェーダ』に最初に描かれています。

スーリヤ神は壮大であると言われています。彼をたたえる歌「スーリヤーシュタカム」の中で、スーリヤ神は、純粹さの象徴であるハスを持ち、7頭のウマが引く金色に輝く戦車に乗っている姿が描かれています。彼はまばゆく輝く太陽の光線に囲まれています。

このページに取り上げられている「スーリヤーシュタカム」は、『サームバ・プラーナ』からのものです。この神聖な教典には、病に苦しみ衰弱するクリシュナ神の息子であるサームバの物語が書いてあります。天界の賢人ナーラダの導きに従って、サームバはチナーブ川のほとりでスーリヤ神を崇拝しました。12年にわたるその懇願の末、スーリヤ神はサームバの前に現れ、病を治しました。

この賛歌の八つの詩節（アシュタカム）は、スーリヤ神の神聖な資質と、内側と外側両方に滋養と治癒を与える光の力をたたえています。「スーリヤーシュタカム」の詩節を歌うと、私たちもスーリヤ神の祝福——きらめく健康、まばゆい豊かさ、揺るぎない勇気、活力ある強さ、そして鋭い知性——と同時に、知恵と精神の解放を呼び起こします。

スーリヤ神について熟考する時、私が感心するのは、この惑星の生命を維持するのと同じ日の光が、歴史的に人間がこれまで見たり知覚したりするのを可能にしてきた光でもあるということです。見る者と見られる者、知る者と知られる者をつなぐのは光です。サンスクリット語では、光を表す言葉の一つはプラカーシャです。窓の外の木々が見えるのはプラカーシャによります。プラカーシャと密接に関連しているものに、意識の力であるヴィマルシャがあります。私が見ている姿を木と知ることができるのはビマルシャによります。

インドの精神の伝統によると、プラカーシャとヴィマルシャは普遍的な大いなる意識の側面です。私たちのすべての精神の状態と、私たちのすべての知覚と感覚を目撃し、照らすのは、意識している大いなる自己です。

私にとって太陽は、私の内なるマインドの空にあまねく広がり、私が見るものを私が認識することができるようにする大いなる意識のこの至高の光の比喩です。この同じ認識の力がチャンティングや瞑想により内側を向く時、その力によって私は内奥の大いなる自己を認識します。ですからスーリヤ神の姿は、無知と限界の暗闇に打ち勝つ精神的知識の光をも表します。

「スーリヤーシュタカム」のそれぞれの詩節は、熟考すべき貴重な価値あるものです。目を引く句の一つは、スーリヤ神が「欠点を取り除く者」と描写されているもので、スーリヤ神によってサームバの病が治癒した話と共鳴します。太陽は身体とマインドの両方を治癒するものです。私たちの欠点、パーパを取り除くことによって、私たちは完全となり、輝きます。私たちの限界は解消し、自分自身の輝く本質を認識することができるのです。

常にどこかで輝く太陽のように、大いなる意識、大いなる自己の至高の光は常に存在し、私たちの心とマインドを照らしています。

